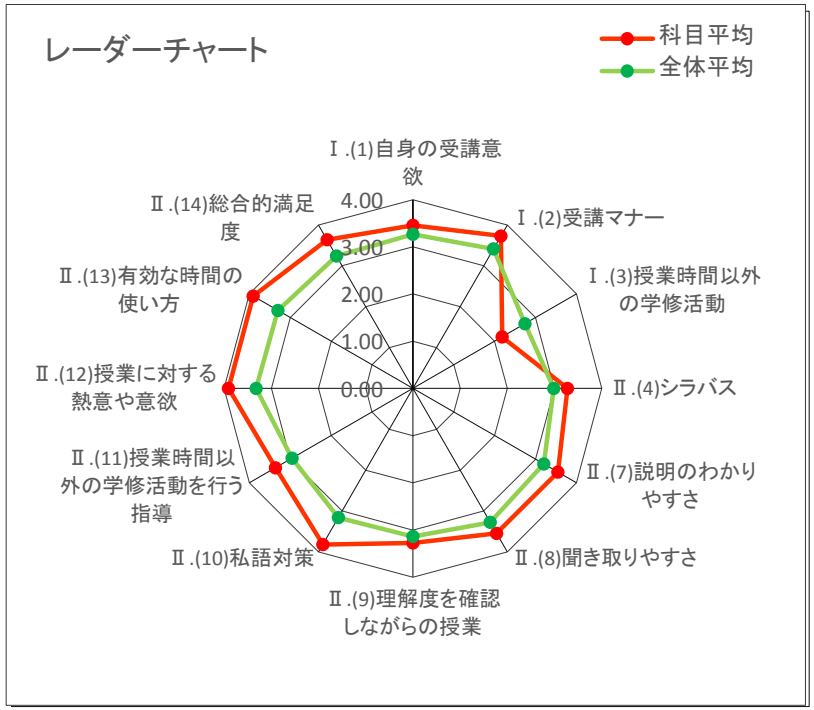
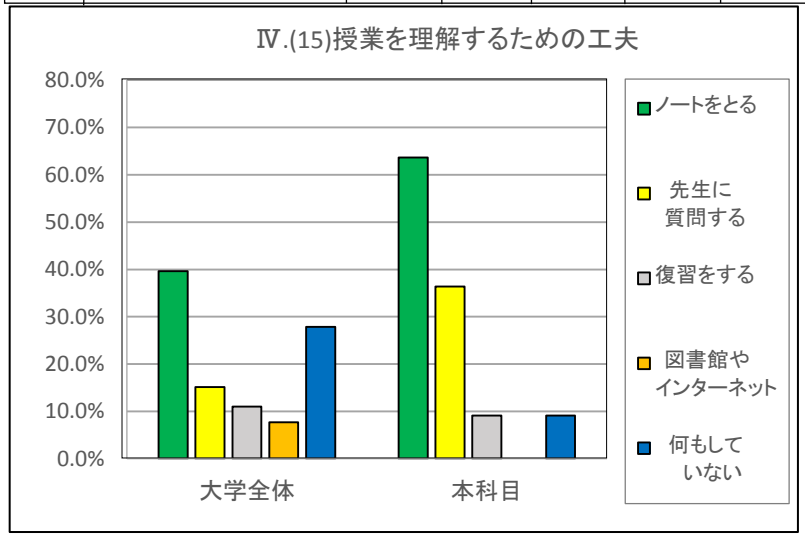
講義科目　授業アンケート結果



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	Ⅰ.(1)	3.45	3.26
	Ⅰ.(2)	3.73	3.41
	Ⅰ.(3)	2.18	2.74
講義内容・方法	Ⅱ.(4)	3.27	2.98
	Ⅱ.(5)		
	Ⅱ.(6)		
	Ⅱ.(7)	3.55	3.20
	Ⅱ.(8)	3.55	3.27
	Ⅱ.(9)	3.27	3.13
	Ⅱ.(10)	3.82	3.16
	Ⅱ.(11)	3.36	2.96
	Ⅱ.(12)	3.91	3.32
	Ⅱ.(13)	3.91	3.30
満足度	Ⅱ.(14)	3.64	3.24

※レーダーチャートの平均は4段階評価　4(そう思う)、3(ややそう思う)、2,（あまりそう思わない）、1（そう思わない）

〈※複数選択可項目〉		ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
Ⅳ.(15)	授業を理解するための工夫	63.6%	36.4%	9.1%	0.0%	9.1%



	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 Ⅰ.(1)～(3)	3.12	3.14
講義内容・方法 Ⅱ.(4)～(13)	3.58	3.17
総合的満足度 Ⅲ.(14)	3.64	3.24

アンケート結果に対する教員のフィードバックシート

授業年度	2014年度　前期
時間割番号	12311
科目名	教育相談の理論と方法
教員名	

①授業計画の達成度について

●授業の目的を認識させた上で、授業計画に従って授業運営を行っているか。（設問4）　15回の授業の中で、途中野球部の応援に東京に行った学生がおり、以後の授業で参加者が揃わず、実習の内容を理解させることが難しかった。学生の意識は、教職を目指すということもあり、高かった。熱心に取り組んでくれたと思われる。
●学習の到達目標、および難易度は適切だといえるか。（設問5、6）　難しい内容よりも難しい内容を、いかに平易に教えるか、ここがポイントだと思われる。この意味では、一方的な授業とは異なり、学生との応答が、学生が理解できるような内容になっているからこのような結果になったと考えている。

②授業の進め方について

●本年度は、前の授業の要点を確実にするために小テストを8回実施した。授業内容で、必須のキーワードを5問出題し、各問2点配点し、定期テストには、その中から80%出題した。無論、事前に学生へのアナウンスを行った。また、実習の機会が4回あった。
●声や言葉、説明は明瞭であるか。（設問7、8）　特に心掛けていた。しかし、演習室での授業であるから、学生との距離は近い。その意味で、やりやすかった。
●授業環境は守られているか。（設問10）　学生が着席する位置は、前の目の届く位置に限定した。その他、私語は殆どなかった。これは、小テストの成果だと思われる。緊張感があったのではないか。
●学生の授業満足度は高いといえるか。（設問13）　12名中5名が女子学生であった。しっかり話を聴いていた。勿論、男子学生も同様であった。ここでも、小テストを毎回の授業の初めに実施した。また、エゴグラムや、教育相談のロールプレイを2度行った。合計12回の授業については、何らかの形で授業のフィードバックを行ったことになる。このようにしていった結果、学生は、小テストとレポートを毎回課した。これは効果があったと思う。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

●やはり、問いかけることに尽きると思われる。学生の考えていることを教員の側が察知して応答していくことが必要だと思われる。これは、ソクラテスの問いかけだと思う。その意味では、授業でのやりとりが学生との間にあったことがよかったと思う。
しかし、今後の課題もある。レーダーチャートを見ると、Ⅰ.（3）では、個人における学修活動全体平均よりも劣っている。学生に対する課題などの工夫をする必要があると思われる。やはり、読書をすることが少ないと考えられるので、授業の初めに、課題図書を与えて、これを元にして、14，15回目の授業で討論会をしてはどうかと思っている。

奈良学園大学